

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
部 長	森山 あづさ
非常勤医師	倉田 宝保

—概要—

肺腫瘍内科では肺癌をはじめとする呼吸器（胸腔内）腫瘍疾患を専門に診療を続けている。

胸部異常陰影、肺腫瘍症例、胸腔内腫瘍に対する治療を中心に細胞障害性抗がん剤に加え、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害剤を使用し、慎重に効果と副作用の評価を行いながら診療を継続している。

関西医大枚方病院の呼吸器腫瘍科教授・倉田宝保医師が非常勤医師として勤務し、倉田医師は不定期ではあるが木曜日午前の外来を担当している。

2010年4月からは近畿大学医学部寄付講座から水曜日を除く連日外来勤務をしていただいていたが、諸事情により急遽2021年3月末で終了することとなった。その後応援医師も一時的に来院するにとどまり、5月以降は外来患者をすべて肺腫瘍内科で引き受け、患者へ説明の上一人ずつ近医かかりつけ医へ紹介し、また他病院への呼吸器科への情報提供を行った。中には胸部異常陰影、肺腫瘍の患者もいたため引き続き診療を続けた。地域の胸部2次検診もすべて当科で担当した。

水曜日午後の大阪大学医学部からの非常勤医師は継続しており、院内紹介を中心に肺気腫、COPD、呼吸器感染症、アレルギー疾患、間質肺炎等幅広い呼吸器内科診療を行っている。

常勤医師としての気管支鏡指導医を継続し、気管支鏡を行ってきたが、今回の近畿大学付属病院呼吸器科撤退にともない、大学病院からの指導認定施設からは外れることとなった。

呼吸器内視鏡関連施設の維持を目指してはいるものの、近畿大学の撤退、医療スタッフの欠員に加え、院内協力体制の低下により、気管支鏡での生検による診断が必要な症例は他機関へ検査を依頼している。

がん治療と並行して2018年から緩和ケアチームに参加し、看護局、薬剤科、栄養管理科、リハビリテーション科など多職種とのカンファレンス、および回診を施行。今や緩和診療はがん患者に限らず、循環器の分野、透析の分野でも緩和中心としたガイドラインが見直されている。

毎週月曜日、午後から緩和外来を行っていた。しかし、コロナ禍による救急体制の変化により2021年5月から救急日直を担当することとなり、他科よりも多くの担当を強いられ、またコロナワクチン接種のための問診当番も担当し、前記の呼吸器科の外来とも重なり、業務は多忙を極めた。

業務の重複のため緩和外来を一時休止し、院内からの紹介やチームでの回診時に合わせて病棟で診察を行うこととした。カンファレンス中、回診時も救急やコロナ検査当番で呼ばれるため、回診もたびたび中断し、他医療者に回診してもらい問題点を後で話し合う事もあった。病院へも緩和の重要性を訴えたが、現時点ではコロナ対応と救急対応が優先課題と説明され、この業務体系が来年度まで続くこととなった。先述の気管支鏡検査も業務内容変更の都合も加わり実施が困難となった。

RST(respiratory support team)チームにも参加できていない。

—実績—

2021年5月23日 緩和PEACE研修会

蔓延防止条例のため院内研修開催中止

2022年1月19日、31日 泉佐野泉南医師会看護専門学校
“肺癌”WEB授業

2022年2月10日 泉佐野市立佐野中学校
“がん教育”WEB授業

2021年度；

肺癌および胸部異常陰影新患者数 = 88人

緩和外来新規患者数 = 21名

—来年度への抱負—

今年度は近畿大学病院の呼吸器科の撤退、コロナ禍での救急診療の担当、コロナ検査および問診当番に振り回された年度であった。救急体制は依然として変る様子はないが、来年度は化学療法を中心とした癌診療に加え、休止している緩和外来を再開し、PEACE研修会も開催し安定した緩和診療を行っていきたく願っている。

肺癌など臓器を超えてFoundation one 遺伝子解析で多くのがん遺伝子を調べることも進んでいる。

<施設認定、関連施設>

日本呼吸器関連施設

日本呼吸器内視鏡関連施設(気管支鏡)